

(Lonely Night Gathering)

さみしい夜の句会報 第143号 (2023.11.12-2023.11.19)

◆ 参加者：西沢葉火、しまねこくん、石川聡、宮坂愛哲、水の眠り、花野玖、蔭一郎、上崎、萩原、アオイ、Suzie、はゆき咲くら、むしみんママ、片羽、雲雀、おかもとかも、元さん、水色の午後、馬勝、石原とつき、天天雷、古城えつ、温(ぬ)、りゅうせん、菊池洋勝、汐田大輝、涼、池田、突波、十六夜、ヴたこだよ、海馬、東ころ、中村マコト、何となく短歌、凧ちひろ、まつりべきん、西脇祥貴、燕雀之心、元さん、みさきゆう、涼閑、かのん、とるぼーる、うつわ、たろりずむ、やは、丸山修平、茄子のこ、saki、雷(らじ)、crazy lover、もふもふ、靈夢、佐竹紫田、凧ちひろ、せば、小沢史、ゆりのはなこ、夏野ネコ、しろとも、ひうま、まつつん、比島アルト、徳道かづみ、透影弦、さー、~~雲雀~~、紅志野、パワームのり、橘しのぶ、ラーラ、かれん、POHJUT、ちゅん、月波与生(七二五)

◆ 7・7、5・7・5 (川柳・俳句)

右腋の縞 差別したあとで見る 西脇祥貴
水晶になるまで柿を拭きなさい しまねこくん
寝る子からひとみの星が抜きとられ やは
セーターはわたしを脱いで横になる 蔭一郎
干し柿と干さない柿の二元論 しまねこくん
蟹たちが来て北風を吹きかえず 蔭一郎
口裏を合わせたジャングルジムの上 中村マコト
方舟に乗り換えるとき眉を剃る 汐田大輝
ひとりでも白線の上まつすぐに 中村マコト
お握りを包むマフラーごと渡す しまねこくん
道草に一番似合う初期症状 おかもとかも

分らないところで曲がる4コマ漫画 海馬
妹の検査したる芋煮かな 菊池洋勝
キクラゲがもんどりうってもどされる おかもとかも
君が濡れて来た僕は花終 池田突波
カッコいい死に方禁止マント脱ぐ 馬勝

ペンキ予報は青だった 西沢葉火
みるみる人波イルミの海の博多駅 石川聡
踏切を渡り切らずに見た夕陽 宮坂変哲
帰り花あの子の巻き毛赤くなる 花野玖
サンキヤッチャーずらす どこから夢だった？ 上崎
性熟す後半戦の人生に 萩原アオイ
たすき反り決めて帰りぬ石路の花 *stussy*
熱下がれと願う母を繰り返す 片羽雲雀
鯨鳴く銀河座標を震わせて りゅうせん
北風で目にゴミ入り異物感 涼
ハッシュタグ消えてあなたを探せない 東こころ
実際に使われていたリング飴 まつりぺきん
近づいていくのに遠くなる二人 涼閑
息継ぎに 落ち葉の道へ 二歩三歩 かのん
小径にはモザイク模様枯葉かな とるぼどーる
きみを見てくすりと唾う吾の首 うつわ
はつきりと悔しい砂利がビルを舞う 丸山修平
風の無い昼の呼吸 雷
咳止めの無い三昼夜冬景色 もふもふ
織月に 魂魄妖夢 立ち向かう 靈夢
湯豆腐を父は無言で食べており せば
おりてくるダチユラの香り縊死の紐 小沢史
寒き朝一輪 希望素が咲いていた 温
きみはほんとに清いひとか新月 しろとも
改めて型に戻るを繰り返す ひうま

生きている朝一番の深呼吸 徳道かづみ

ひっぱられひっぱられて優しさ曇る さー

お尻から無花果を出す君が好き 好き好き

酒だけが僕を陽気にさせるとは 紅志野。パワーみのり

沈黙の語尾に脱臼癪がある 月波与生

◆ 5・7・5・7・7 (短歌)

棘というよくわからないメモがありよくよく見たら東京だった たろりずむ

美しい思い出として片付けて非通知だけど誰だか分かる

馬勝

お前より上手に焼いたパンケーキ見せたくなくて一人で食べた 馬勝

南港と天王寺を歩き来る野鳥はどこで眠るのだろう 古城えつ

気付いたら今日もスルーのため息が出そうで止めた忘れてほしい 古城えつ

愛しくて幸せだった love のクラウドに僕も上がっていきたい 水色の午後

大輪の菊の花私の息を吸い私はあなたの香りを吸う何度も何度も菊を吸う むくみんママ

初雪が落ちる音がした約束を守り合えずに季節が変わる みさきゆう

平凡な馴れ初めだったそうなのに母は恋愛上映中だ 水の眠り

笑う日も泣いている日もあるけれど抱くあの人しあわせでいて はゆき咲くら

木枯らしの冷たい風と当てられる恋人たちの熱い仕草に
元さん

発光生物は瞬間は気象予報士は予感に悔しい 石原とつき
気がつけば年越し模様コンビニで早めの稲垣潤一を聞く
天雷

かなしみはひとつふたつとかぞえるのやがてやさしくねむ
りについて 十六夜

愛なんか突きつけられた拳銃とおんなじじゃない命に触れ
る ヴたこ だよ

ごめんねとすみませんとを繰り返し私はどこへ向かうのだ
ろう 何となく短歌

心身の言葉に耳を傾ける 傷んでいるのはどっちだろうか
凧ちひろ

吾子の笑み和やかな顔悟りしは想ひのままに生きよと願ふ
燕雀之心

ネトフリをどれだけ見ても埋まらぬ日をエヌウオームは
ふわと包んだ 茄子のこ

報を貪り時間を食られ空いたスキマは空虚で充ちる segment
あたたかな声は段々遠くなりもう耳で聴くことはできない

佐竹紫田

ああなんて素晴らしい日だ♪歌う歌手がいてさみしきなん
て忘れる ゆりのはなこ

やはらかき人間の部位串刺して巨人に喰はせるごとく泣き
ぬる 夏野ネコ

ちよっと目を離すと消えそうになって手のかかるこの子が
恋しい まつつん

手を入れて背を丸くしてトボトボと鉛色の空、疎ましくて
比島アルト

結露した夜は高くて澄んでいて雨音がしてからつぼだった
透影弦

◆詩

お花をおくる事にした
いつも笑顔で
よく話を聴き
皆に平等で
前向きなあなた
助けられた
ほんの少し
おかえし (crazy lover)

◆作品評から

カッコいい死に方禁止マント脱ぐ 馬勝
　　↓死ぬな死ぬな死ぬな死ぬなよ師走かな(橘しのぶ)

冬型の天パーすこし大人しめ 水の眠り
　　↓「天パー」は「天パ」のことと読んだが違うことかも
　　↓しれない。冬型↓大人しめ、と相反しそうな言葉を天然パ
　　↓ーマで結ぶ。くるくる。(月波与生)

朝顔になって咲きたいその首に 輪井ゆう
　　↓朝顔が小学生理科の教材にもなるほど咲かせやすい花
　　↓でるが咲く場所が「首」であるというところが異様さある。
　　↓置かれた場所で咲きなさい。首にはアイデンティティがあ
　　↓る。(月波与生)

美しい思い出として片付けて非通知だけど誰だか分かる
馬勝

　　↓素敵です！(ラーラ)

苦しくて途中下車するこの頃はどこの駅にもDAISOがある
何となく短歌

「苦しくて…」の前半と「どこの駅にも…」の後半が
合っていない気がする。後半のトボケた感じがいいので前半
ももっと軽くてもいいのでは。(月波与生)

わたしはこの後半の「どこの駅にもダイソーがある」に
「苦しい」が呼応していると思います。手軽に物が手に入
る時代になってしまったある種の逃げ場のなさ、途中下車
してみるほど苦しくてもダイソーばかりで息つく暇もない
のが感じられます。(かれん)

あたたかな声は段々遠くなりもう耳で聴くことはできない
佐竹紫円

でも、あなたの温かな声は届くのですよ
きつと、心に残り続けるでしょう(占い師めいたこと言っ
てますね)(水の眠り)

湯豆腐を父は無言で食べており せば

「豆腐に火が通っていつて、ぽこりと静かに動く。お父
さんがゆっくり掬った一丁の豆腐を静かに食べ終わる。句
に詠まれている時間の流れがとても美しいです。湯豆腐は
冬の季語でもあるので、俳句として味わいました。でも肉
親が主題の現代川柳としても素敵な句かと。(石川聡)

はつきりと悔しい砂利がビルを舞う 丸山修平

「はつきりと悔しい」砂利が「と切って、作中主体が悔
しい vs 砂利が舞うの光景の取合せで読めます。でも「悔
しい砂利」と砂利が悔しがる読み筋が自分には面白いと思
いました(石川聡)

沈黙の語尾に脱臼癖がある 月波与生

〜与生さんのこの句は、巷の川柳句会に出して抜かれる傾向の句でしょうか？番傘の句会などでも取り沙汰される可能性はあるでしょうか？だったらリアル句会に出てみたいです。こういうスタイルの句、凄いい好みなので。(石川聡)

サヨナラと訳されていたオリオン座 中村マコト

〜映画の字幕を読んでいるとなるほどと思わせる意識が多い。オリオン座の句は結構読んだが「サヨナラ」が訳だったのは初めて。(月波与生)

たすき反り決めて帰りぬ石路の花 SUSUJI

〜襷反りって、はじめて知りました。相撲の決まり手の一つなのですね。ありがとうございます (POHJI)

手を入れて背を丸くしてトボトボと鉛色の空、疎ましくて

比島アルト

〜自然と背が丸くなってしまっているのではなく、心情的に意識することなのでしょうかね。なんかそういう気分になるの分かる気がします。(ちゅん)